

日本患者・家族団体協議会

SSKOの 仲間No.18

SSKO

〒161 東京都新宿区下落合3-15-29

全腎協内

☎03(952)5347/FAX03(953)1750

購読料1部300円(年間1,500円送料込)

5月
1989

患者のねがいを託して

1043万人署名
104議員に

JPC国会請願

JPCは四月十四日、四十三万人以上の「難病患者などの医療と生活の保障を要望する」諸願署名をもって、国会請願行動を行いました。この請願署名は全国の難病、慢性疾患、薬害、労働災害、職業病などに苦しむ患者・家族らが、困難な状況を乗り越えて集めたもので、昨年の署名数数の四十二万人を上まわりました。

請願に先立つ集会在、午前十時三十分から、衆議院第一議員会館で行われ、地域難病連、疾病別全国団体から十九団体六十人あまりの代表が参加しました。

集会は辻川寿之常任幹事（全交災）の司会ですすめられ、伊藤たてお代表幹事（北海道難病連）が参加者と署名を集めた全国の患者・家族らの労をねぎらうとともに、「最近の医療・福祉を取り巻く厳しい情勢にもかかわらず、年々署名数が増え、毎年四十万人を超える署名を集めている。このことは、JPCの活動が浸透している証明であり、今日の情勢を打開する大きな運動を、今すぐにも展開しうることを示している」とのあいさ

つをしました。

集会には、各党を代表して衆参両院あわせて五人の議員と十人の秘書がかけつけ、参加者を激励するとともに、JPCの請願内容への立場と対応を説明しました。

議員あいさつの後、厚生省から松本義幸疾病対策課補佐がかけつけ、八九年度予算案に盛り込まれている同課の予算のうち、難病医療相談事業をはじめとする難病対策について説明し、JPCを代表して伊藤たてお代表幹事が若干の質問と要望を行いました。

集会后は、衆参両院の社会労働委員会を中心に百四人の議員に請願書をもって要請しました。JPC代表の話しに親身に対応し、JPCの請願内容を支持し、心よく院への提出を約束してくれた議員も数多く、また、議員や秘書の対応からJPCの存在と活動が国会議員のあいだにも広がってきたことも確認できました。

請願後、JPC事務局には請願を国会に提出した旨の連絡が各党から寄せられ、結果が注目されます。（7面に署名数・募金一覧）



あいさつする伊藤代表幹事

海外研修レポート

東南アジア三か国を訪ねて

ベーチエット病友の会大阪府支部 藤木 明

いよいよ出発

昨年十一月、滋賀県大津市でJPCの全国交流集會が開かれ、同時に協力会員特典の海外研修がペアである第一回抽選が行われ、思いもしていなかった私が当りました。

私は小さい頃からスイスアルプスをぜひ見たいと思っていましたが、日程の関係で東南アジアにしまし



た。私はベーチエット病が発病して二十三年、目に症状が現われてから三年になり視力も低下してきています。出発間近になって心配していた目の発作が起り、出発前日まで治療を受け薬を持つての初体験の海外旅行の出発となりました。

三月十日、キャセイ航空で不安と期待の入りまじった複雑な心境で大阪空港を離陸し、香港経由で一番目の訪問国シンガポールに向いました。

緑と花のシンガポール

第一の訪問国シンガポールは、日本の淡路島ほどの面積で緑と花がとても多く近代的な街並みです。道路や公園にゴミやタバコの吸殻を捨てたり、公園の花や木を折ったりすると罰金です。中華街では人力車や露店の床屋さんを見ることができ庶民的な下町情緒を味わいました。面白い話も聞きました。この国には地下鉄が走っていますが、切符（大人五〇セント）を買ってから三十分以内に下車しないと二ドルの罰金を取ら

れるということです。

仏教の国、タイへ

バンコク市内にも多くの寺院が建ち、金や銀そして宝石類を惜しみなく使用している程の華やかで美しく、タイ独特の建て方で、始めて異国に来たと実感しました。メナム川の水上マーケット、暁の寺院、エメラルド寺院などを見ました。宮殿の豪華さにはびつくりし、栄華を誇った当時を想像することができました。しかし市民の生活は私の目から見て楽ではないと思いました。街も夜でも必要以外の電気は消して、街全体が暗く物騒に感じました。タイでは昼は暑くて気温も三十五度に上り、車やホテルではクーラーを使いました。また、タイ料理は私の口に合わず残念でした。

面白いドロボー市

最後の訪問国、香港では水上レストランでの食事、百万ドルの夜景観賞、ピクトリアピーク、タイガーバームガーデンなどを観光しました。面白いと思ったのはドロボー市場でした。四、五十件程の露店が出てハダカ電球の下で、ライター、時計、万年筆、衣類、ハンドバッグなど色々な品物を売っていました。品物は

コピーのコピーで店員の最初に入った値段の三分の一が本当の売値で、絶対に買わないようにとのこと。

三月十五日、午後八時二十分、予定通り無事大阪空港へ着きました。

バンコク・香港の

医療は

バンコクと香港で現地の係員から聞いた医療のことですが、バンコクでは医療費は五〇%が自己負担で、お金がないと医者に行けない。でも無料で診察をしてくれる医者もいるとのこと。

香港では、政府病院と私立病院があつて政府病院はサービスが悪く、お金を持っている人はサービスの良い私立病院へ行くとのこと。政府病院に一回診察を受けると十ドル（百八十円）いるそうです。政府病院は入院患者が多く、ベッド数が足りないとのことでした。なお、大学卒の初任給は五万円位だそうです。

かけ足で三か国を観光してきましたが、自分の目で見たり、耳で聞いたりして貴重な体験をして大変勉強になりました。これからの自分の人生にプラスになったと思います。

今回の旅行に当りまして、大阪難病連の壽さんはじめ事務局の人たちに大変お世話になりました。

今後の社会福祉は市町村と民間に

福祉関係三審議会
合同企画部会が 意見具申

厚生大臣の諮問機関である中央社会福祉審議会、身体障害者福祉審議会、中央児童福祉審議会の三審議会が、中央児童福祉審議会の三審議会としてつくられている福祉関係三審議会合同企画分科会は三月三十日、「今後の社会福祉のあり方について」意見をまとめ、厚生大臣に具申しました。提言は同会が一九八六年一月から審議をしていたものです。

福祉行政は市町村で行うとし、老人福祉、身体障害者施設への入所決定権を都道府県から市町村に委譲し、福祉事務所の機能を再編成するよう提案しています。

提言は、社会福祉制度を取り巻く環境を、急激な高齢化の進行、国際化の急速な進展や所得・生活水準の向上や生活様式の多様化などから、「国民の生活を取り巻く社会・経済・文化的状況は大きく変化してきている」としています。その上で、「人生八十年時代にふさわしい長寿・福祉社会を実現する」ために、①市町村の役割重視②在宅福祉の充実③民間福祉サービスの健全育成④福祉と保健・医療の連携強化・総合化⑤福祉の担い手の養成と確保⑥サービスの総合化・効率化を推進するための福祉情報提供体制の整備を基本的な考え方としています。

また、社会福祉事業体系の見直しでは、現在社会福祉事業として認められていないホームヘルパーの派遣、デイ・サービス、ショート・ステイなどの在宅福祉サービスのうち市町村が提供するものは、新たに社会福祉事業として位置付ける一方、シルバー・サービスなど民間による有料サービスの育成を推進するとともに、社会福祉事業法の対象として法的規制は加えず、行政指導と自主規制で対応するなどとしています。

具体的には、生活保護行政をのぞ

きません。

医療・福祉のうごき

3月

▽6日 社会
保障制度審議会

は、厚生年金の支給年齢を段階的に六十五歳まで引き上げることが柱とする国民年金・厚生年金制度改正を答申した。

▽13日 国立精神・神

経センター精神保健研究所のまとめによると、睡眠薬や精神安定剤を飲み続け、やめられなくなる薬物依存者が増加していることがわかった。

▽13日 厚生省は新年度から「難

病」の患者や家族の病気に對する不安や生活上の悩みを解消するために専門医らによる「相談窓口」を開設する。当面は七都道府県に開設。

▽16日 自民党社会部会

は厚生年金支給開始年齢の六十五歳繰り延べの実施時期については別の

3・4月

福祉関係三審議会

厚生大臣の諮問機関である中央社会福祉協議会、身体障害者福祉審議会、中央児童福祉審議会について検討するため一九八六年一月から審議を

法案で処理することを了承した。

▽19日 社会福祉関係三審議会が老人福祉・身体障害者福祉の運営と実施を市町村を主体とすることなどの意見具申案を固め、厚相に提出。

▽19日 厚生省がまとめた平成元年度の国民医療費推計によると、国民一人当たり十六万二千二百円、総額は二十兆円で前年度比五・七増となり、国民所得の伸びを上回った。

4月

▽13日 大阪大学の医学倫理委員会の「移植医療に

関する中間報告」は、脳死を前提に、心臓や肝臓などの臓器移植を医療として認めることを打ち出した。実施には阪大以外の救急医療施設と移植施設を結んだ地域ネットワークづくりなどの整備が必要、との条件付。

▽14日 社会保険審議会は高額療養費の自己負担限度額を現行より三千元(低所得者は一千八百円)引き上げることを答申した。

続けてきました。昭和二十年代にその骨格が形成された現在の社会福祉制度を取り巻く環境が、高齢化の進展や所得水準の向上などで大きく変わったため、これらに対応できるように社会福祉制度を見直す必要があるとしています。

がんばれ患者会

こんな活動してまいます

患者会と患者の接点を

「が秋田にも必要であるという気運が高まったということです。」

難病センター造ろう

「患者のねがい 難病センター秋田にも」——難病センターの建設実現は、私たち秋田難病連の悲願です。県への要望項目のなかに、このセンター建設を盛り込んだのは数年前、そして、活動方針の重点目標として、実祭に取り組みはじめたのは二年前からです。

六十二年度からセンター建設運動に取り組むことになったきっかけは二つあります。一つは、五十一年の会結成以来、十年間という運動の実績を踏まえ、今後さらに運動を盛り上げ、より大きな結果を生みだすための具体的な目標作りの必要性が提唱されたこと、二つめは、県から補助金(三百万円)で六十年代からスタートした「難病無料検診と相談会」に広汎で深刻な悩み、不安が実に多く寄せられたことから医療や行政、患者会と患者・家族を結ぶ接点として、常設の相談室を中心にしたセンタ

4

上げられ、平成元年度から実施されることになりました。

建設の実現に向けて

「センター建設運動初年度」と位置付けた六十二年度には、まず北海道難病連の伊藤事務局長を講師に招いての理事学習会を実施しました。そして、「希望の集い」を

六十三年度には、加盟九団体からの委員十七人で構成する「難病センター建設委員会」を発足させました。当面、「難病センター建設計画案」の作成をめざして、協議をすすめることにしています。構想のなかに盛り込むことが決った主なものは次のとおりです。

難病センター秋田にも

秋田難病連

開催して、センター構想の趣旨説明や患者の体験発表、「難病センター造ろう」大会宣言の採択などを行いました。このときの模様は地元の新聞、テレビでも大きく報道され、早速寄付金が寄せられるなど反響を呼びました。

その翌日、県福祉保健部長に難病患者の実状を直接訴え、センター建設の根拠となる「難病患者の実態調査」の実施を要望しました。これについては、県議会でも取り

- ①常設の医療・福祉相談室（電話相談含む）
- ②宿泊施設（一般宿泊と介護付長期宿泊施設）
- ③リハビリ施設
- ④団体事務室
- ⑤はり、灸、マッサージ室
- ⑥特殊入浴室
- ⑦調理実習室
- ⑧大会議室
- ⑨研修室
- ⑩図書、資料室
- ⑪職業指導訓練室
- ⑫談話室

「計画案」には、四階建ての図面を付け、センター構想の発端と背景、センター建設の意義と目的、などの文章を添えて難病患者の実態を訴える内容にする予定です。

昨年度の段階で県は、センターの必要性を一部認め、県関係の既存の建物のなかに必要なものから設置していきたい旨、具体的に三か所の施設を示しています。

私たちは、それに対する検討とあわせ、将来的には一つの独立した建物を必ずや実現するため、今後、広報活動や署名、建設資金の造成活動などを地道に推し進めていきたいと考えています。

事務局 〒010 秋田市旭北栄

町1-5 心身障害者

総合福祉センター内

☎ 0188-2316233



反響をよんだ「希望の集い」



本当の笑顔が

こぼれるまで

福島難病連 八代 弘

はじめまして、福島の八代です。

難病運動活動家の皆様に表示する程のことは、持ち合わせておりませんが、私の三十五年の人生に飽きもせずにつきあっております。

持病の紹介と、少なくとも「スマート」とはいえない、綱渡りの人生を書いてみたいと思います。

正体あらわる！

皆様は、筋ジストロフィーという疾病を知っていると思います。が、少し話してみたいと思います。

今思えば、小学校の一年で、秋の運動会でリレーの選手をなんとか努められ、三、四年生と進級し、果ては五年生のマラソンでは、女の子にも負けてしまい、中学進学時には筋肉不発達と名付けられ、虚弱体質と剣道で鍛えられても一向に改善されず、一年の春の陸上競技大会ではトラック四週で、トップに追い抜かれてしまい、母が

作ってくれた握り寿司の味と、よく頑張ったとの女の子の激励の言葉と、味は記憶に新しいです。

それでも、筋ジストロフィーは正体を現わしません。家庭、学校はいらだち、遂に入院、二か月かかって学校へ戻つての

悪友の一言……
子どもは残酷です。
本人は、スポーツが駄目なら外に、なにかあるさと絵画をやったり科学をみたり、好奇心でいっぱいです。体育の成績は先生により「一」であったり「五」をもらったり、鉄棒も跳び箱もできないのに！

教育の大事さ！

転びながら、泥だらけになりながらもなんとか中学、高校と、終えられました。

病気なんかには負けないぞ！

本人以上に、困難を抱えた者を取り巻く人々は苦勞が多いことだったと思いますし、最大限の努力と数限りない犠牲？があつたと、今になって思われることは、少なくありませんし今後も……。

さて、本題に戻って、今も現実に難病のレットルを張られようとしている人が、悲しいことに順番を待っています。

私は、この人たちのために、私たちがたどった道を歩かせてはならないと思いますが……。

社会の役割り！

私たちは、常に適切な医療と教育、心理、精神上的のケアを必要としています。現在の社会構成上では相当無理があると考えます。

なぜならば、現場、親・家族、教育(社会)、医療、行政が縦割りであり、多種、多様の問題をひとつに集約することは物理的に無理でありますし、四者が相当高いレベルで統合されなければ不可能です。必要な時期の、適切な助言、指導がなければ、十分な社会参加も

不可能ですし、社会資産の活用にもなりません。本当の文明社会の原点は、ここにあると思います。社会は行動しなければなりません。困難な問題を解決する場合、声なき声を聞き、現状を確実に把握し行動あるのみです。経済の発達、新たな疾病の発生、社会の変化を考えあわせれば到底かなわないし、問題が山積みされていきます。

飛行機ばかり乗っては、野原のれんげの香りはわかりませんよ………さん。

今後の展望！

最後に悲観ばかりではしようがない、執念で心は、筋ジストロフィーにゆずれない。

私たちは生命という使つてはならない唯一のジョーカーを、手に歩まなければなりません。

本当の笑顔がこぼれるまで頑張ります。う。できなければあまりにも悲しい……。

同じ思いを持つものがひとつになり問題にあたれば、必ずや解決するでしょうし、糸口は見えています。

5

JPCの活動

総会議案などを協議

—第2回幹事会—

JPCは四月十五日、十六日、東京・渋谷区の北海道東京第二事務所にて規約改正後二度目の幹事会を開きました。

この幹事会には十九団体二十三人が出席し、六月四日に行われるJPC第四回総会議案などについての協議を行いました。

冒頭、座長に全交災の辻川常任幹事と議事録署名人に静岡県難病連の海野幹事を選びました。

伊藤代表幹事から「現在、着々と社会保障の改善が準備されている中で行われるこの幹事会を活発な討論で成功させていきましょう」とのあいさつがあり、議事に入りました。

体調をくずし欠席した小林事務局長に代わり、古川常任幹事が幹事会前日の国会請願行動(一面参照)について、また前回幹事会以降のJPCの活動について梅崎常任幹事が報告を行いました。

そのあと協議事項に入り、古川常任幹事から最近の医療・福祉情勢について報告が行われました。このなかで、「今年は『九〇年の福祉・社

会保障の全面改革にむけての準備期間」と言われています。私たち患者・家族にとって新たに厳しい状況

が生れつつあります」と年金制度の改革や医療保険の改革、社会福祉をめぐる非常に厳しい状況などについての報告がありました。そして今後の取組み強化の必要性が強調されました。

情勢報告をうけて、第四回総会議案の協議を行いました。八八年度活動報告・決算報告、八九年度活動方針案・予算案などについての検討・協議を行いました。この協議のなかで消費税廃止を求める特別決議を総会で提案することなどを決めました。

二日目も引き続き総会議案、総会準備、来年度役員などについて協議しました。そのなかで、情勢に見合った大行動が求められていること、介護を必要とする人のためにJPCの各種行動・行事にボランティアを組織し参加の保障をしていくこと、協力会員を中心に雑貨あっせん事業などの資金造成活動をさらに拡大していくこと等が確認されました。また医療相談会の研修会を八、九月に行うこと、来年度の役員構成についてはおおよそ現行のままで大幅な変更は行わず提案すること、などが話

6

し合われ議事を終えました。

第6回常任幹事会を開催

JPCは三月十日、十一日、東京都内で第六回常任幹事会をおこない八人が出席しました。

この常任幹事会では最近の医療・福祉・社会保障の情勢、第四回総会議案の活動報告、活動方針案骨子、予算・決算、総会の準備や任務分担などについて話し合いました。

また第二回幹事会の準備や議題、国会請願行動の準備などについての協議も行いました。

日経新聞が患者会活動を紹介

四月八日(土)付けの日本経済新聞夕刊に「患者ネットワークで同病相励ます」という記事が掲載され、患者団体の活動が紹介されました。

このなかで、「同じ病気の患者や家族同士が連絡をとり、医療情報を交換したり、互いに励ましあったり。医療行政改善へ向け自治体に働きかけるなど、助けあいの『患者ネットワーク』は着実に広がっている」とし、具体的には全腎協、全国心臓病の子供を守る会の活動や患者団体の一覧などが紹介されました。

県単事業

◆医療費公費負担 【対象】橋本病、突発性難聴、シモンズ・シーハン病、クッシング病及び尿崩症、ネフローゼ症候群、悪性腎硬化症(以上入院のみ)、血友病(二十歳以上入、通院)内分泌疾患、糖尿病、先天性代謝異常(以上二十歳未満入、通院)

◆医療費助成 重度心身障害者医療費助成。六十五歳未満自己負担分。

◆経済援護 介護手当。ねたきりの在宅重度心身障害者の介護者に支給。

◆就労援助 身体障害者更生資金特別貸付。限度額四十万円。

◆その他の制度 生活改善資金の貸付。限度額百万円。県営(特定目的)住宅への入居。優先入居。

兵庫県

◆福祉タクシ― 【対策】身障手帳一、二級。伊丹市、高砂市、赤穂市、西宮市(一級の内部障害者)神戸市(内部障害含む)朝来町(社協単独事業)。その他ガソリン代補助有。

◆神戸市事業 見舞金として慢性腎疾患月四千六百円、慢性心疾患月二千三百円、膠原病月四千二百円(以上二十歳未満)点頭てんかん(十八歳未満入院)月五万四千円など。

北海道難病連

第3次

ヨーロッパ医療・福祉視察旅行参加者募集

実施予定 1990年5月末～6月中旬
(白夜のころ)

または4月末～5月上旬

費用見込 1人55万円～58万円
(旅行ローン有)

訪問予定国 フィンランド、スウェーデン、
オランダほか

どなたでも参加できます。

*介護を要する方は介助者付でお申し込みください。

お問い合わせは

北海道難病連相談室へ ☎ 011-512-3233

患者団体の一覧表が掲載されたこともあって、八日の夕方からJPC事務局には問い合わせが殺到し、数日の間に五、六十件の電話がありました。
また同記事で患者団体の役割と意義について、JPCの長宏代表幹事の談話も紹介されました。内容は以下のとおりです。「日本の医療を身をもって体験し、実感を誰よりもよく知っているのが患者であり、患者

団体。日本の医療の良い面、悪い面がわかっていくから、各種提案に深みがあり、行政サイドも耳を傾けるを得なくなっている(中略)。患者団体がさまざまな要望を出し医療行政が前進すると、それは「社会的財産」になる。現在は健康な人も将来、病気になるたとき、その財産を享受できる。有病率が上昇している時代だけに、意味は大きい」

7

「難病患者などの医療と生活保障を要望する」

国会請願署名・募金一覧表

(1988年度分)

団体名	署名数	募金額	団体名	署名数	募金額
北海道難病連	25,029	342,505	鹿児島県難病連	5,376	27,201
秋田難病連	7,046	56,358	クロロキン	1,177	11,000
福島県難病連	8,740	4,500	ス全協	8,493	83,000
茨城県難病連	4,734	50,200	全交災	260	2,000
群馬県難病連	10,686	84,083	全腎協	225,775	650,000
長野県難病連	4,682	0	心臓病	11,885	142,405
静岡県難病連	16,385	150,000	多発性硬化症	1,090	32,000
岐阜県難病連	9,438	102,900	パーキンソン	3,068	311,573
三重県難病連	3,403	0	全患協	6,030	50,000
滋賀県難病連	10,132	135,118	全肝協	200	0
京都難病連	8,811	136,380	日患同盟	5,807	146,346
大阪難病連	27,374	419,281	全低肺	0	0
兵庫県難病連	20,089	20,000	オストミー協会	0	0
奈良県難病連	1,888	13,000	新宮難病連	850	20,155
岡山県難病連	2,447	10,825	ペーチェット山形	1,523	37,524
高知県難病連	1,212	32,700	その他	171	1,700
宮崎県難病連	2,259	0	合計	436,060	3,072,754

(89年4月24日現在)

訂正

本誌第十七号でいくつかの誤字がありました。訂正いたします。

(編集部)

- 第五面二段九行目 北沢和夫↓北沢和雄
- 第六面一段五行目 京都府立↓京都市立
- 第六面一段十八行目

年間数十万↓年間十数万
第六面二段七行目 雪船↓雪舟

第八面一段十九行目 十月十八日(土)、十九日(日)

- 全国交流会
- ↓十一月十八日(土)、十九日(日)
- 全国交流会
- ↓十一月十八日(土)、十九日(日)
- 長野県諏訪湖畔
- 長野県諏訪湖畔

伝言板

JPC協力会員募集

日頃はJPCの協力会員制度にご協力いただきありがとうございます。皆様のご協力のおかげで、昨年度は海外研修派遣の抽選も実現し、当選者を派遣することができました(二面のレポート参照)。

本年度は目標達成にむけて取り組みを強めていきたいと思っております。

さて、年度も新しくなり、新会員の募集を行っています。会費は年間一口三千円、特典はJPCの仲間をお届けし、さらに海外研修派遣抽選の権利が得られます。

ドシドシ応募ください。お待ちしております。

また申し込みも三百五十口以上となり、目標には及ばなかったものの、着実に拡がりつつあることです。

JPC第3回総会のお知らせ

JPC第四回総会を次のように開催いたします。

記念講演は、年金問題か、医療保険問題をテーマに(講師未定)予定しています。お誘いあわせの上、ご参加ください。

記

日時 一九八九年六月四日(日)

午前十時半～午後四時

会場 全社連会館

品川区東五反田二一十一十四

☎ 〇三四四五〇八〇〇

JR山の手線五反田駅下車徒歩六～七分

宿泊 総会参加者のために前夜の宿泊を全社連会館に若干用意しています。ご希望の方はJPC事務局までご連絡ください。なお、総会の資料は当日、会場でお渡しします。

JPC地難連交流会は前日

JPC加盟の地域難病連による

地域難病連交流会を総会前日の六月三日(土)、午後一時から四時まで全社連会館で開催します。参加および当日の宿泊は福島県難病連までお申し込みください。

団体通信

▼北海道難病連がチャリティーバザー

恒例になった北海道難病連「春のチャリティーバザー」が三月四日、五日の二日間北海道難病センターで行われました。このチャリティーバザーは難病集団無料検診や相談会など患者と家族を励ます活動の資金づくりと難病連・センターの活動の啓蒙、地域の人たちとの交流などを目的として行われているものです。提供された品物は衣料品、電気製品、家庭雑貨など約一万六千点、なかにはスクーターの提供もありました。

三階建のセンターは身動きがとれないほどの盛況ぶり、総売り上げは二百四十八万円にのぼりました。

▼全腎協が国会請願

三月三十日全腎協が第十八回国会請願を行い、全国各地から百二十七人の患者・役員が駆け付けました。そして六十四万余の署名を社会労働委員の議員を中心に提出し、「腎疾患総合対策」の確立など切実な願いの実現を訴えました。

▼秋田難病連に専用電話

秋田難病連に専用の電話が入りました。電話番号は次のとおりです。

☎ 〇一八八一三三二六二二三三

▼大阪難病連が医療相談会

三月十九日(日)、大阪難病連が大阪市立労働会館で「学習講演会と難病医療相談会」を行いました。

午前中の学習講演会には講師に滋賀医科大学の中川米造氏を招いて「健康の考え方」をテーマに講演を行い、二百二十人が参加しました。

午後の相談会には、潰瘍性大腸炎、クローン病、膠原病などを中心に約五百四十人が相談に訪れました。

▼大阪難病連が「大阪難病連のしおり」を発行

大阪難病連が難病連結成十五周年記念事業の一環としてすすめていた「大阪難病連のしおり」がこのほど完成し発行されました。この「しおり」には政令指定都市などを中心に行った「医療・福祉施策に関するアンケート調査」の結果が報告され、全国的にみても貴重な資料として注目されています。定価六百円。お問い合わせは大阪難病連事務局まで。

☎ 〇六一六五二一一三二一一



ああ……、一円玉……、
また……、君も行ってしま
うの? 五円玉くん
……。僕たちの愛をひき
さいてしまっ、消費税”
のバカヤロー。(佐藤)

一九七六年二月二十五日第三種郵便物認可
SSKO増刊通巻三十一号 (毎週月・水・金曜)
一九八九年五月二十三日発行

発行

発行所

身体障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区砧6-26-21

頒価三百円

目 次

○ 患者のねがいを託して	153
○ 海外研修レポート	154
○ 今後の社会福祉は市町村と民間に	155
○ 医療・福祉のうごき	155
○ がんばれ患者会 こんな活動してます	156
○ 病気なんかに負けないぞ！	157
○ JPCの活動	158
○ 伝言板 団体通信	160